

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



No. 15

2022.9.1

ごあいさつ

副院長 市岡 滋

諸問題が山積する今夏、連携施設の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

当院においては篠塚病院長体制が3年目を迎え、2022年8月からは第2期の新しい組織で運営に臨みます。

長年にわたる課題の1つに当院は初診の予約ができないという欠点がありました。初めての患者さんは、目的の診療が受けられるか、待ち時間はどの程度か不明のまま来院されるしかありませんでした。治療歴があっても一定期間受診がないと初診扱いになることがあり、再診予約をお受けできないご不便もおかけしていました。

この解決に向けて、2021年10月に医療機関からの初診受付を開始しました。そして2022年3月からはいよいよ患者さんご自身による電話初診予約ができる体制となりました。

電話番号は049-276-1179（埼玉医科大学病院・予約センター）、受付時間は月曜日～土曜日の8:30～17:00です。患者さんにお渡しする「電話初診予約のご案内書」を準備しています。埼玉医科大学病院ホームページの「医療機関の方へ」→「地域医療連携室」→「電話初診予約」と進めばPDFでダウンロードできます。本稿の7ページにも案内書を掲載しましたのでご利用下さい。

今後とも活発な診療連携をお願い申し上げます。

Contents

ご紹介	2
先進医療「家族性アルツハイマー病遺伝子診断」に関してのご紹介	
診療科のご紹介	3
内分泌糖尿病内科 地域医療科	
医師のご紹介	4
リウマチ膠原病科 腎臓内科	
病院長からのメッセージ	
看護部から	5
医療福祉相談室のご案内	6
提携医療機関から	6
川野医院	
電話初診予約のご案内書	7



先進医療「家族性アルツハイマー病遺伝子診断」に関するご紹介

今回は当院で行われております、「先進医療家族性アルツハイマー病遺伝子診断」についてご紹介させていただきます。アルツハイマー病は、神経病理学的に老人斑・神経原線維変化を特徴とする認知障害をきたす疾患です。

認知症全体の約半数近くを占める最も高い変性疾患であり、現在アミロイド前駆蛋白から切り出されたβアミロイドの増加が神経細胞障害を誘導する「アミロイド仮説」が発症メカニズムとして有力視されてます。

このうち、約10%が家族性であり、現在までに常染色体優性遺伝形式をとる3つの遺伝子変異である、Amyloid precursor protein (APP) (アミロイドプレキューサープロテイン)、Presenillin 1 (PSEN1) (プレセニリン)、Presenillin 2 (PSEN2) と疾患感受性遺伝子としてAPOE多型(ε4アレル)が同定されています。家族性アルツハイマー病は、一般的なアルツハイマー病より若年で発症して進行が早いと考えられています。

その点において、遺伝子診断により、早期介入や病気に対する知識を持つことが重要であると思われまます。

今回の先進医療・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断は、採血によって得られたリンパ球からDNAを抽出し、疾患の原因となる遺伝子変異があるかどうかを解析することで、遺伝学的に家族性アルツハイマー病を診断することを目的としています。アルツハイマー病が疑われる患者さんで、両親、兄弟姉妹、親戚などにおいてアルツハイマー病の方が複数いらっしゃる方が対象です。

先進医療の詳細は当院で行いますので、「もの忘れ」による診断のために紹介していただくということでも結構です。

遺伝子診断を受けることで、この病気になる可能性があるかどうかを調べることができ、早期介入や予防、治療薬の選択や生活習慣のアドバイスなどを本人やご家族に提示させていただきます。

開業の先生方へ医療連携のメッセージ

今後埼玉県の高齢化率の上昇により、アルツハイマー病が疑われる患者さんに対しての医療における関わりも更に重要となって参ります。ご相談のみ希望される患者さん・ご家族も歓迎いたしますので、お気軽に下記までご紹介いただけましたらと存じます。

高齢者精神科医療の医療連携をさらに深めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いたします。



神経精神科・心療内科 准教授 新井 久稔
外来☎：049-276-1410
(精神医療福祉相談室)

● **内分泌糖尿病内科 教授 島田 朗 (シマダ アキラ)**

当診療科、内分泌糖尿病内科は、糖尿病と内分泌疾患を幅広く扱っておりますが、以前より、病診連携に力を入れており、これまでも数多くの患者さんをご紹介いただいております。

糖尿病については、単なる血糖管理のみならず、急性代謝失調を起こして、緊急入院を要する症例についても積極的に引き受けしております。より専門性を要する病態としては、1型糖尿病や妊娠例などがありますが、昨今、進歩の著しい先進機器（持続血糖モニター（CGM）や持続皮下インスリン注入療法（CSII）など）の導入もメディカルスタッフの協力のもと、チーム医療を軸にスムーズに行っ

ております。

内分泌疾患については、甲状腺穿刺吸引細胞診（FNAB）をはじめ、原発性アルドステロン症に対する副腎静脈サンプリング（AVS）も定期的に行っております。糖尿病、脂質異常症、副腎／高血圧、甲状腺／骨代謝、など、代謝内分泌領域においても、さらにそれぞれの領域のエキスパートが在籍しているのみならず、他の施設では類を見ないほど多くの症例経験がありますので、何かお困りの場合には、ぜひ、今後ともご紹介をいただけますと幸いです。

診療部長のご挨拶

当大学に赴任して約7年になりますが、当診療科も若手が著しく成長しており、診療の層の厚さが年々増しております。本来、内分泌糖尿病領域は、慢性管理が主体であり、より丁寧な診療が求められますが、一方で、急性期病院として必要とされる緊急を要する場合にも、機敏に対応できております。お気軽にご相談ください。

内分泌糖尿病内科 診療部長 島田 朗
 外来 ☎ : 049-276-1280



副腎静脈サンプリング(AVS)風景

診療科のご紹介

● **地域医療科 教授 廣岡 伸隆 (ヒロオカ ノブタカ)**

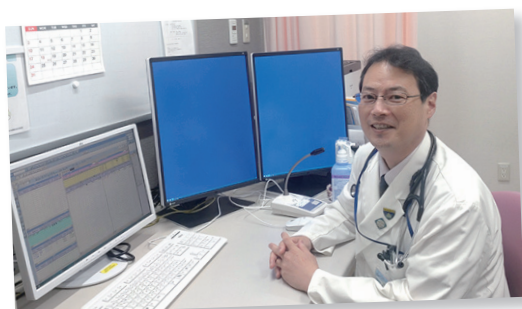
地域医療科は、2022年4月に新設された科です。昨今の医療を取り巻く環境を鑑み、地域の中で院内外の連携を推進することや地域医療を担う医師の育成は、大学病院の役割の一つだと考えられております。これから始まる連携重視・地域志向の診療を通じて、幅広い患者さんの診療に当たるとともに地域に寄与できるよう診療を開始し、科の運営をしてみたいと存じます。高度な医療の提供には専門科と連携し、当科での診療が適切と判断した際は責任をもって全人的な診療を行います。診断に苦慮する症例、多疾患併存でお困りの方（これまでの高齢者

総合外来＝プラチナ外来も含みます）、予防的医療、移行ケアにおける介入などの相談先としても、まずは外来中心にお応えできればと考えております。地域ニーズに沿って患者さんを中心とした医療を皆様と作るお手伝いをしてまいります。加えて、地域医療に関連する学生や医師の教育にも力を入れており、皆様のご協力をお願いすることもあるかと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

診療部長のご挨拶

2022年4月1日付で診療部長を拝命致しました。専門である総合診療・家庭医療の特色である患者中心、地域志向、連携重視といったアプローチで大学病院内外との連携を推進し地域や大学病院・大学に貢献できればと考えております。何卒宜しく願い申し上げます。

地域医療科 診療部長 廣岡 伸隆



● **リウマチ膠原病科 教授 秋山 雄次 (アキヤマ ユウジ)**

近隣地域の医療機関の皆様、平素は当院が大変お世話になっております。

この4月よりリウマチ膠原病科に着任いたしました。7年前まで当科に勤務していましたが、小川赤十字病院へ副院長・リウマチ科部長として赴任し、リウマチ科の設立、研修医管理・病院管理に関わりました。優しい医療の実践、病診連携の推進、研修医プログラムの改訂、研修環境の整備など研修医の定着に努力しました。目標の一つであるチーム医療を定着させることは叶いませんでしたので、今後の宿題として勉強・研究したいと思います。

当科では、平日午前・午後、土曜日午前に南館1階でリウマチ膠原病外来を行っています。また、門野夕峰教授（整形外科）・和田琢医師（当科）・宮野恭平講師（皮膚科）合同で脊椎関節炎外来を、出産を希望する慢性疾患を有する女性患者さんのために内科医の立場でサポートする母性内科（舟久保ゆう教授）をいずれも難病センター内に開設しております（難病センター窓口にお問い合わせください）。

多くの治験など先進医療も行って、現在進行中の治験の対象疾患は全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、成人 Still 病、皮膚筋炎、高安動脈炎などになります。治療に難渋するような方がいらっしゃればご相談ください。



医師のご紹介

● **腎臓内科 教授 井上 勉 (イノウエ ツトム)**

日頃は診療連携にご高配を頂き、誠にありがとうございます。

腎炎・ネフローゼ症候群を専門としております。蛋白尿と血尿が両陽性の場合、腎機能が低下する以前に腎生検での確定診断が望ましい場合がございます。あまり進歩が無い分野ですが、リツキシマブの導入によって、急速進行性糸球体腎炎やネフローゼ症候群のステロイド使用量を随分と減らすことが可能となりました。

近年は腎硬化症が多くなっております。特徴は、



顕著な尿異常を伴わずに腎機能が低下することです。一度拝見させて頂き、必要な精査の後に同症の可能性が高い場合は、導入が望まれる治療薬や再紹介時期をご提案させて頂いた上で、逆紹介させて頂いております。

緊急透析導入をゼロにするという目標で診療に当たっており、学会が勧める「2人主治医制」を実践したいと考えております。全身管理に長けた「かかりつけ」の先生に日常診療をお任せしながら、腎機能の低下に合わせて必要な治療や情報をご提案させて頂くという方法です。腎代替療法の情報提供は早いほうが望ましいとされており、従来よりも随分と前倒しになっております。

当院をご利用頂ければ幸いです。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

● 病院長からのメッセージ

リウマチ膠原病科 秋山雄次先生

リウマチ膠原病科の秋山教授は以前当院で診療されていましたが、その後小川赤十字病院の副院長として、診療はもとより病院管理や研修育成、病診連携の推進など幅広い分野で活躍されてきました。今回、当院に戻って来られ、専門であるリウマチ膠原病の診療に再度携わって頂けることは、当院にとっても大きなプラスであります。

きめ細かい診療は患者さんから定評があり、多くの方をご紹介頂ければ幸いです。診療のみならず、地域の中心的な基幹病院における経験を活かし、今後多くの方面で活躍されると信じています。難病センターや先進医療の発展にも力を注いでいますので、どうぞよろしくお願い致します。

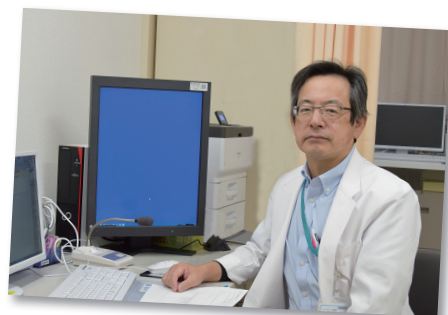
腎臓内科 井上勉先生

腎臓内科井上先生は、腎臓病の中でも腎炎やネフローゼ症候群を専門としていますが、その真面目な

性格と人柄で、患者さんはもとより院内外の医療従事者からも信頼を集めています。

また、診療以外でも学生教育や卒前卒後教育において、熱心な指導は定評があり大学においても貴重な存在であります。

井上先生には、この8月から院長補佐のひとりとして就任頂きましたが、今後病診連携や運営に関して一緒に課題に取り組んでいきたいと考えています。9月から腎臓内科教授に就任しました。今後益々の活躍を期待しています。どうぞよろしくお願い致します。



● 看護部から

アイセンターロービジョン外来の紹介

人は情報の80%以上を視覚から得ているといわれています。では眼の病気になっても治療では治らず十分な視力に回復されない場合はどうしたらよいでしょうか。埼玉医科大学病院アイセンターロービジョン外来では、医師、視能訓練士、看護師らにより、このような見えづらさで生活に困っている方に、残された視機能を最大限に発揮する方法を考え、生活をいくらかでも豊かにするお手伝いをいたします。

具体的な内容は、例えばまぶしさに苦痛を感じている方には遮光眼鏡を勧めたり、文字が読みにくい方にはルーペや拡大読書器などを紹介します。また、日常生活場面でもより見やすくなるようなアドバイスや便利グッズの紹介などを行います。他にも白杖の入手方法や、福祉、教育、就労に関わる問題なども相談に乗っております。当院ではサポートできないことは、埼玉県視覚障害者ネットワーク「彩のひとみ」に掲載されたロービジョンサポート機関とも連携し、紹介状をお渡しして新たなステップへ進まれるお手伝いをいたします。

当院アイセンターは看護師が外来、手術室、病棟を交代制で勤務しているため、入院前から患者さんの状態が把握でき情報共有が可能です。そのため外来時のみならず、入院中からケアを必要とする方に対してより早く介入を行い、患者さんの満足度向上に努めております。

当院アイセンターのホームページにもお役立ち情報が掲載されていますので是非ご活用ください。
(<https://saitama-med-eye.jp>)

アイセンター外来
岩村 亜紀



点眼指導



ルーペの紹介

医療福祉相談室のご案内

埼玉医科大学病院医療福祉相談室では、現在5名の社会福祉士が医療ソーシャルワーカーとして患者さんやご家族の療養支援に携わっています。相談室は、本館と繋がる基礎医学棟の2階にあります。廊下向かい側には入退院・患者支援室があり、退院支援看護師と密な連携を取りながら患者支援を行っています。

昨今では、転院調整や退院調整を看護師が担う場面が増えてきました。当院でも、退院調整は退院支援看護師が担っています。併せて転院調整は、病棟が担うシステムに移行しているところです。

そのような流れの中で、医療福祉相談室の業務も変わってきています。十数年前までは、相談室の業務は転院支援や退院支援、経済面の支援や制度の案内などが大部分を占めていました。

社会情勢が変化してきた現在は、特に多い支援内容として、身寄りがない患者さんや、在留資格がない患者さんが治療を受けるための支援、ハイリスク妊産婦への相談対応や地域との連携、医療的ケア児の退院・連携支援、虐待事例への対応や関係機関との連携などがあり、どれも地域の関係機関との連携

支援が不可欠なケースばかりです。

病気を抱えながら社会の一員として地域で生活している患者さんやご家族の支援を行うためには、今後更なる地域連携が必要と感じています。患者さんやご家族の支援に医療ソーシャルワーカーの協力が必要なことがありましたら、ぜひ医療福祉相談室へご連絡ください。

医療福祉相談室 TEL：049-276-2119（直通）
月曜日～土曜日（祝日・年末年始を除く） 9:00～17:00



医療福祉相談室社会福祉士 長谷部、下山

提携医療機関から

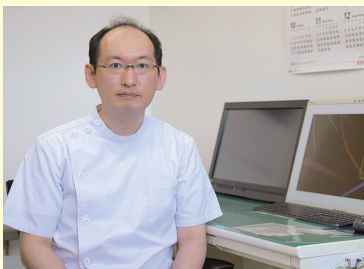
川野医院(鶴ヶ島市)

当院は私の祖父が昭和24年に開院した診療所です。当時は結核が国民病として恐れられていて、肺結核の診療に力を注いでいたそうです。現在、新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、感染症との戦いは永遠のテーマなのだと実感しています。

私の専門は循環器で、内科全般、小児科の一次診療を行っております。専門医受診が必要な場合、貴院のカルナシステムは初診予約が可能であり、患者様に好評です。

医療DX推進が政府の骨太の方針2022に記載され、電子処方箋の導入などが計画されておりますが、紹介状や報告書のオンライン化も望めます。貴院と迅速に連携しながら、地域住民から頼りにされる診療所を目指して参ります。

院長：川野 太郎



医療機関情報

外来診療時間：午前 9:00～12:00
午後 14:00～18:00

休診日：日曜、祝日、木曜午後、土曜午後
ホームページ：<http://kawano.style.coocan.jp/>



電話初診予約ご案内書

年 月 日

紹介元医療機関名

医師氏名

電話初診予約ご利用の患者さんへ

埼玉医科大学病院 予約センター 049-276-1179
受付時間 月曜日～土曜日 8:30～17:00

- ◆ご来院の際は、下記の太枠内に必要事項を記入の上、上記予約時間の15分前までに本館1階初診窓口にて、「**ご来院日にお持ちいただくもの**」をお出してください。既に、診察券をお持ちの方も初診窓口にお寄りください。
 (初診窓口での外来診療申込書の記載は必要ありません)
- ◆**ご来院日にお持ちいただくもの**
 - ・本書(ご案内書) ・健康保険証 ・各種公費医療券(お持ちの方のみ) ・診療情報提供書(紹介状)
 - ・埼玉医科大学病院のIDカード(診察券)(お持ちの方のみ)
- ◆診療の状況により予定時間より遅れることもあります。予めご了承ください。
- ◆ご受診当日、本書を忘れた場合は初診窓口前にある外来診療申込書を記載してから初診窓口に提出し予約があることをお伝え下さい。
- ◆キャンセルや予約変更は予約センターへご連絡をお願いします。
- ◆下記の太枠内は患者さんご自身でご記入ください。

埼玉医科大学病院		予 約 日 時			
診療科		年 月 日 ()		時 分 ~ 時 分	
フリガナ	(氏) Family name (名) First name		国籍 Nationality	性 別 <input type="checkbox"/> 男 (M) <input type="checkbox"/> 女 (F)	生年月日 (Date of Birth) 明・大・昭 年 月 日 平・令
患者氏名			電話番号 (Phone No.)	携帯電話 (Mobile Phone No.)	
現住所 (Address in Japan)	〒 - (Zip)	都道府県	区市郡	町 村	マンション・アパート名 (号室)
フリガナ	(氏) Family name (名) First name		続柄	(Relationship to Patient) 患者の	
連絡者 (本人以外)					
連絡先住所 (Family-address)	〒 - (Zip)	都道府県	区市郡	町 村	マンション・アパート名 (号室)
埼玉医科大学病院受診歴 あり・なし					
ありの方 前回受診日以降に住所等の変更があれば、変更前のお知らせ下さい。					
旧姓	旧住所		旧TEL		

埼玉医科大学病院

埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199
地域医療連携室 : 049-276-1876
予約センター(外来初診予約) : 049-276-1179

医療福祉相談室(退院調整) : 049-276-2119
入退院・患者支援室 : 049-276-1484
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース(15号)

発行 : 埼玉医科大学病院
発行責任者 : 篠塚 望
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日 : 2022年9月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。